

健康診断結果の見かた

健康診断の項目は、総合判定・身体測定値・血圧・尿検査・視力検査・胸部X線・血液一般検査・肝機能検査に分かれています。

それぞれの項目の、右側に結果とその単位を記入しています。また、結果の左横に、*(アスタリスク)表示のある場合は、今回の結果が基準値からはずれていた事を意味します。以下の検査結果基準値をご参照ください。なお、基準値とは「健康な人の95%が当てはまる範囲」を示したもので、基準値からはずれたからといって、必ずしも病気があるとは限りません。

項目	基準値	説明
BMI	18.5-24.9	体重が適正かどうか次の式で算出します。 BMI = 体重(Kg) ÷ (身長(m) × 身長(m)) 理想 22・低体重 18.5 未満・肥満 25 以上
最高血圧	90-119 mmHg	血圧が高い状態が続くと動脈硬化を起こしやすくなり、血管が切れたり、詰まったりして心筋梗塞や脳卒中を引き起こす要因になります。
最低血圧	50-79 mmHg	
尿検査	(-)	尿蛋白 尿中にたんぱくが混入していないか調べます。 糖尿病や腎臓に異常があると増えます。
		尿糖 尿中に糖が混入していないか調べます。 血糖値が高いと増えます。
		尿潜血 尿中に赤血球が混入していないか調べます。 腎臓や尿路などに異常があると増えます。
視力	0.7-2.0	裸眼視力を検査して、近視や乱視などの病気がないかを調べます。 コンタクトレンズや眼鏡を利用している方は矯正視力を検査して、コンタクトレンズや眼鏡が合っているかどうか調べます。
胸部 X 線	この健診の範囲では異常ありません。	がん、結核、肺炎などの肺疾患の有無や心肥大や大動脈の状態を調べます。
赤血球	M 4.00-5.39 F 3.60-4.89 (×10 ⁶ /μℓ)	酸素を全身に運ぶ働きがあります。少ない場合は貧血、多い場合は多血症が疑われます。
MCV	M 88.0-103.0 F 86.0-100.0 (μm ³)	
MCH	M 29.5-35.0 F 28.1-34.0 (pg)	
MCHC	28.1-37.9 (%)	

項目	基準値	説明
白血球数	3.10－8.40 ($\times 10^3/\mu\text{l}$)	ウイルスや細菌を攻撃する細胞です。感染症・炎症などがある場合に異常値になります。
好中球	30.1－74.9 (%)	細菌や異物を取り込み、細胞内で消化してしまうという「殺細菌作用」をもっています。
リンパ球	17.6－59.9 (%)	リンパ球は、「免疫担当細胞」とも呼ばれ、免疫反応の中心的役割を担っています。
好酸球	－5.7 (%)	アレルギー反応（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、気管支喘息など）や膠原病の場合に増多します。
好塩基球	－1.8 (%)	まれに結核や伝染性単球症など疾患で増加をみることがあります。
単球	2.3－8.2 (%)	
ヘモグロビン	M13.1－16.3 F12.1－14.5 (g/dl)	赤血球の中の物質で酸素を運ぶ働きがあり、少ない場合は貧血、多い場合は多血症が疑われます。
ヘマトクリット	M38.5－48.9 F35.5－43.9 (%)	血液全体に占める、赤血球の容積の割合のことです。主に貧血度を調べる指標です。
血小板数	145－329 ($\times 10^3/\mu\text{l}$)	血液を凝固させて出血を止める働きがあります。血液疾患や肝障害などで異常値になります。
GOT(AST)	－30 (U/L)	肝臓の細胞の中に多く含まれている酵素です。
GPT(ALT)	－30 (U/L)	GOTは肝臓・心臓・筋肉などに問題が生じたときに、GPTは特に肝臓に問題が生じた場合に高くなります。
γ -GTP	－50 (U/L)	肝臓や胆道に障害があると高くなります。アルコール性肝障害の指標になります。
HBs 抗原	(－)	B型肝炎ウイルスに現在感染している場合に陽性となります。
HCV 抗体	(－)	C型肝炎ウイルスに現在感染している、または感染したことがある場合に陽性となります。
CRP	－0.30 (mg/dl)	感染症や炎症があると高くなります。
総コレステロール	140－199 (mg/dl)	細胞やホルモンの原料です。高いと動脈硬化の原因となります。

数値には個人差があり、体調によっても変化します。今回の健康診断で異常が指摘されなかった方でも、気になる症状がある場合には、早めにヘルスクリニックにご相談ください。その他健康診断結果に関するご質問がある方は、いつでも気軽にヘルスクリニックまでお越し下さい。

APUヘルスクリニック
開室時間：月～金 10:00～17:00
E-mail: booking@apu.ac.jp